

令和4年度

学校評価
(自己評価)
(学校関係者評価)



山梨市立加納岩小学校

《 学校評価について 》

【 学校教育法 】

- ・学校は、学校評価を行うと共に、その結果に基づいて学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努めること（第42条）
- ・保護者・地域住民等の関係者による理解の深化と連携・協力の推進に資するよう、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する（第43条）

【 学校教育法施行規則 】

- ・自己評価を行い、その結果を公表すること（第66条）
- ・保護者その他の関係者による評価を行い、結果を公表するように努めること
(第67条)
- ・評価結果を設置者（市教育委員会）に報告すること（第68条）

【 学校評価ガイドライン（文部科学省） 】 学校評価の目的

- ・学校運営の組織的・継続的な改善
- ・説明責任の履行と学校・家庭・地域の連携，協力
- ・教育委員会による支援，条件整備等の改善

《 本校における学校評価の実施手順 》

① 自己評価

- ・評価項目 → 校長を中心に職員会議で確認 → 策定
- ・教職員による評価項目への取組と振り返り（1月まで）
- ・自己評価書を作成（1月～）

②学校関係者評価

- ・保護者，地域住民が，自己評価の結果を踏まえて評価
- ・本年度の実施→学校運営協議会委員7名による評価
- ・実施期間 令和5年2月22日（水）

③評価結果の設置者への報告 山梨市教育委員会へ（3月下旬）

1. 自己評価

令和4年度 学校評価PDCAシート

【確かな学力】部会

P 評価項目	○確かな学力の育成を図る。	
D 具体的な対応	○日常的に授業改善を行う。また、授業と家庭学習とを有機的に結びつける。 ○ICTを活用した授業実践を行う。 ○英語教育の充実を図る。	
C 評価の方法と結果 (中間)	方法	○授業において、個別で思考させる場面・協働的に解決する場面を意図的に設定し、日常的に授業改善を行う。 ○家庭学習振り返りカードを活用しながら、宿題や自主学習の取り組みなど、家庭で学習する習慣を確立させる。 ○一人一台端末を活用した授業実践を積む。 ○英語教育では、学年での打ち合わせを行い、単元計画や教材研究、発問など具体的な授業展開を考える。また、振り返りカードから児童の実態を把握し、常に計画を見直しながら充実した実践をする。
	結果	○個別で課題を解決する場面、協働的に課題解決する場面を設定したことで、考えていることを伝えたり、まとめたり、考えを付け加えたりする児童の姿があらわれてきた。 ○家庭学習の習慣は確立している。自主学習の取り組みは、学年の実態によってさまざまである。 ○スライド、ジャムボード等を活用した発表や意見交換、classroom を活用したオンライン授業や課題提出、学習者用デジタル教科書を取り入れた授業実践をすることができた。児童も活用することにより慣れてきた様子が見え始める。さらに、週末の持ち帰りをすすめ、家庭学習でも活用する児童も見受けられる。 ○日頃の振り返りシートの記述から、授業に前向きに取り組む児童が多いことがわかった。また、学習者用デジタル教科書を積極的に児童に活用させたことにより、表現の定着が図られ、結果として伝えたいことを主体的に表現する児童の姿がみられるようになってきた。高学年では、英語科で学習者用デジタル教科書を通した学び方を授業の際に指導したことで、児童は家庭学習においても活用できるようになってきた。
A 今後の取組	○学びの個別化・協働的な学びの効果について教師自身がふり振り返り、授業内で意図的に設定する。主体的な学び、自分の思いを表現することを大切にさせたい。 ○授業と家庭学習とを有機的に結びつけるため、4月・11月に各家庭に家庭学習の取り組みに関わるお便りを配付する。 ○一人一台端末の扱い方や管理が雑になっている様子が見え始める。校内研究で整理した一人一台端末の扱い方一覧を、年度始めに児童に配付し、各学級で使い方のルールを徹底する。	

令和4年度 学校評価PDCAシート

【豊かな心】部会

P 評価項目	○人権教育・道徳教育の推進といじめ・不登校への対応。	
D具体的な対応	○いじめや不登校に迅速・適切に対応すると共に、教育相談体制を整備し周知する。 ○人権・道徳教育を推進する。道徳科の授業を要として、差別やいじめのない学級づくりを行う。	
C 評価の方法と結果	方法	○学校生活アンケートを活用し、いじめの早期発見・早期対応をする。 ○学級力向上プロジェクトを活用し、2回以上学級力アンケートを実施する中で、クラスの実態を把握するとともに、一人一人が居心地の良いクラスづくりを行う。 ○道徳科の授業を要として、差別やいじめのない学級作りを行う。 ○SCや家庭との連携を密にして、教育相談体制の整備や個に応じた指導を行う。
	結果	○学級力向上プロジェクトなどの活用により、目指すクラス像を共有することで一貫した指導ができた。また、自分のクラスの現状を5つの視点に沿って振り返ることで課題と成果を確認し、よりよいクラス作りのための話し合い活動を行うことができた。 ○道徳科の授業をはじめ、学校生活全体を通して差別やいじめのない取り組みを全学級が行い、差別やいじめの未然防止や早期発見・早期対応につなげることができた。 ○SCの相談を利用する児童が増え、活用する機会が増えた。また、6年生・5年生全員の個人面談や保護者面談などを行うことにより、個別に応じた決め細かな対応につなげることができた。 ○学校生活アンケートを活用し、いじめに対する早期の対応をすることができた。長期にわたって、児童をみとれる引継ぎシートの活用も行った。
A 次年度への課題	○学級力プロジェクトでは、児童も教師もクラスの学級力を把握し、目指すクラス像を意識して取り組めるよう、全学級で学級力レーダーチャートの掲示を引き続き行う。また、アンケートやスマイルタイムの実施時期については、キャリアパスポートも活用しながら教育課程の行事に合わせて行い、子どもたちの協働意識を高めていく。教職員間で、プロット図を見合い今後の指導に生かす。 (時間をどうやって作るかが課題) ○昨年度より、児童や保護者の相談利用が進んだが、まだ相談利用に抵抗を感じる児童や保護者もいる。さらに活用が進むよう、方法を模索する。	

令和4年度 学校評価 P D C A シート

【健やかな体】部会

P 評価項目	○健やかな体の育成を図る。	
D 具体的な対応	○体力の向上を図る。 ○感染症予防への対応を行う。	
C 評価の方法と結果	方法	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策を考えて作成した「かのいわ体操」や持久走大会に向けた練習，なわとび運動を業間体育で取り組み，基礎的体力やバランス感覚を養う。 ○保健委員会や給食委員会とも連携しながら，日常の健康観察や検温・手洗い等の感染症対策を徹底指導する。 ○感染症対策を講じた上で，持久走大会を実施し，業間体育で持久走の練習を行い体力の向上を促す。 ○冬季になわとび検定を実施することにより，外遊びの頻度が減少する時期に外でなわとびの練習をする機会を設けるようにする。
	結果	<ul style="list-style-type: none"> ○「かのいわ体操」を取り組むことで，普段外遊びをしない児童も基礎的体力やバランス感覚を養うことができた。 ○保健委員会は，動画を使って感染症対策の意義について伝えることができた。給食委員会は，残食調べなどを通してバランス良い食生活の大切さを伝えることができた。 ○持久走大会も感染症対策を講じた上で実施することができた。児童は，業間体育の成果を出し，達成感を味わうことができた。また，体力向上にも直結した行事にすることができた。 ○なわとびの活動を授業時間や業間体育などを使って実践できた。新しい技の習得や運動機会の確保につなげることができた。また，体育委員会で行ったジャンピングボードも児童の意欲の向上につなげることができた。
A 次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が中心となって，感染症対策について伝えていく場面を今年度同様に続けていく。 ○感染症対策を講じていきつつ，その時の状況に合わせて体育行事の実施方法を検討していく必要がある。 ○体力テストの結果は依然として全国平均値を下回る種目もある，児童が主体的に体力や運動能力を向上させていけるような取り組みを検討していく必要がある。 	

令和4年度 学校評価PDCAシート

【安全安心】部会

P 評価項目	○安全安心な学校環境をつくる。	
D具体的な な対応	○安全指導と訓練を実施する。 ○危機管理マニュアルの周知と不断の改善を行う。	
C 評価の 方法と 結果	方 法	<p>○毎月第2木曜の朝学習の時間を「安全指導の日」とし、全校一斉にその時期に必要な安全指導を行う。</p> <p>○1分間1コマ訓練を行い、日頃から非常変災時の自主的な避難行動を児童の身に着けさせる。</p> <p>○実効的な訓練となるよう予告なしの避難訓練を行い、1分間1コマ訓練の効果を検証する。</p> <p>○危機管理マニュアルを策定し、教職員へ職員会議や打ち合わせ時に周知・徹底する。また、不断の改善を行っていき、より実効性のあるマニュアルを整備していく。</p>
	結 果	<p>○安全指導の日…事前学習等の資料を示し、学年の実態や発達段階に合わせて内容を整理し、実施している。全校体制で全校同時の実施を呼びかけたが、安全指導に対する担任の意識で、取組に違いがみられている。</p> <p>○1分間1コマ訓練…担任の自然災害に対する意識により、実施状況が左右されている。教員自らが当事者意識を持ち、実効性のある訓練にしていきたい。</p> <p>○予告なし避難訓練…火災と地震の2回実施。児童らの避難の様子は大変落ち着いていた。本当の災害発生時にも同じような行動がとれると良い。</p> <p>○危機管理マニュアル…マニュアルの更新や周知を行った。マニュアルを見ながら、説明する機会を設けた。</p>
A 次年度 への 課題	<p>○日常、起こりがちな生徒指導上の課題解決に忙殺され、安全指導等は後回しになることが多いが、今日の自然災害等の発生状況を考えると、教員の安全指導に対する意識改革を行う必要がある。</p> <p>○児童の負傷が多いので、自然災害等ばかりではなく、学校生活上の安全指導にも重点をおく必要がある。登下校時の安全についても同様のことが言える。</p>	

2. 学校関係者評価

学校関係者評価委員会

1 実施日 令和5年2月22日（水）

2 会場 加納岩小学校調べ学習室

3 参加者

○学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）

平井 隆	区長会長
中村 昌夫	P T A会長
古屋 文彦	主任児童委員
笠井 一	児童民生委員地区会長
雨宮 政文	社会教育委員
山森 友子	P T A副会長（女性代表）
長坂 達也	P T A顧問

○学校職員

中村 雅彦（校長） 深澤 真人（教頭） 内藤 健（教務主任）

《 学校関係者評価委員からの意見 》

①確かな学力

- ・ICT活用のために校内研等で学習会や研修を行っていることは良い。今後、更に活用できるよう指導力の向上を期待する。
- ・持ち帰りの方法や使用上のルール作りをしっかりと進めてほしい。
- ・多忙の中、研究と実践を繰り返しながら、効果的な教育がなされていると思う。
- ・今後、ICT教育を推進していくうえで、児童が相互に育ちあう発信と受信とが不可欠だと思う。そのためには「家庭・地域」との連携も重要だ。

②豊かな心

- ・コロナ感染規制が緩和していくことを考えたとき、マスク着用などについてきめ細かな指導が必要になるだろう。
- ・マスクの着用について、市からは強制はしないが任意で着用するよう指導を受けている。今後、着用が必要な時は、着用を促す指導をしていく。
- ・SC利用、活用が少なくないだろうか。利活用のハードルをさげていけるよう努力してほしい。
- ・年間29回SCに来校してもらった。5、6年生は全員がSCとの面談を実施している。学習のこと、進学のこと、家庭のことなどを相談していた。ここ2回は相談がなかったため、クラスの様子を見てもらったり、個別に気がかりな児童の様子を観察してもらったりしている。
- ・人権教育は、コロナやマイノリティの課題がある中、重要な教育である。
- ・学力向上プロジェクトは、集団づくり、学級づくりに分かりやすい取り組みだと思う。全校で取組を深め、効果を検証し、成果を継続して生かしてほしい。保護者や地域への周知も必要だろう。

③健やかな体

- ・感染症予防に関わる取組は、学校行事を実施するために様々な工夫を行ったことは評価できる。
- ・規制緩和が進み、マスクを外していくにあたって、子どもたちがなぜ外してよいのか正しく認識できるような指導、道徳的、心理的な指導、声かけを願いたい。
- ・児童の基礎体力向上が図られる活動や、子どもたちの交流が図られる活動が、少しでも実施されるよう考えていただきたい。

④安全安心な学校

- ・登下校時、教職員は付添いをしているのか。降雪等の緊急時はおこなっているようだが、月に一度程度は教師に見てもらえたら、更に良いと思う。
- ・道路拡幅工事が行われており、大きな車が頻繁に出入りする。危険個所を確認して多くの目で見守っていければ安全は高まるだろう。
- ・「一分間一コマ訓練」や「予告なし避難訓練」など、実践的で身につけやすい方法での意識化や行動化は、小学生にとって防災力の向上に結び付きやすい。
- ・保護者や地域の方々を含めた、社会全体での安全な環境づくりができると良い。

⑤全体的に

- ・学校運営協議会委員7名による評価だが、学校に入れない今年度の状況では評価できない。会議の中だけではなく、昨年度の書面開催のように事前に文書で回答できたら、もう少し正当な評価ができるかもしれない。
- ・教職員の働き方についても意識して学校経営の中に入れ込んでいき、何らかの取り組みをしていくことが必要だと思う。
- ・学校評価の記述だが、できなかったこと、達成していないことの記載がない。課題も明確にして、次年度取り組むほうがよいのではないか。子どもの様子など見えづらい部分があると思う。
- ・本校では、自己評価→学校関係者評価→結果公表、報告の流れで学校評価を行っている。
- ・県内には市で統一しているところもある。あるところでは、子ども、保護者のアンケートをとるところもある。
- ・山梨市は学校ごとに学校評価の実施方法が違うようだが、検討していく必要はないだろうか。
- ・新型コロナウイルス感染症対策についても取組が徹底されており、特に問題となる事案はなかったと認識している。
- ・今後も自己評価の通りの実践を期待している。
- ・感染症対策を十分にとり、児童の安全安心確保を第一に考えた対応をお願いしたい。